

53. HLA1座不一致移植に対するATG投与の影響

研究の概要

同種移植ではHLA完全一致のドナーが理想的とされますが、実際に完全一致ドナーが得られない症例も多いのが実情です。HLA不一致移植では移植片対宿主病 (GVHD) のリスクが上昇することにより低下することが知られているため、当院ではHLA不一致ドナーからの移植に際してATGを用いてGVHDを予防しています。この研究では、当院におけるHLA不一致移植に対するATG投与の影響を検討します。

研究の目的と方法

2006年1月から2017年12月までの間に、HLA1座不一致のドナーさんから同種骨髄又は末梢血幹細胞移植を行った患者様に関して、カルテデータを用いて無再発・無GVHD生存率、全生存率、治療関連死亡率、再発率、GVHD発症率などを後方視的に解析します。

本研究の参加について

本研究により患者様に新たに検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究に扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。本研究にご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございました際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

調査する内容

本研究は、新たに試料・情報を取得することではなく、既存のカルテデータ（問診記録、身体所見、検査データ）を用いて実施する研究です。研究対象者（患者様）の個人情報（氏名、住所、電話番号）は記載せず、個人情報は特定されません。

調査期間

研究期間：当院倫理委員会承認日～2019年10月31日（調査対象期間：2006年1月～2018年11月）

研究成果の発表

研究成果については、学会、論文などでの発表を予定しています。

研究代表者

血液内科 河北敏郎

当院における研究責任者

血液内科 河北敏郎

問い合わせ先

血液内科 河北敏郎

TEL: 096-353-6501